

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (近畿)	◎	コンビニ（経営者）	・平日のビジネス街はテレワークも減少し、出勤率が80%程度に戻る可能性がある。売上も15%ほどの増加が見込めそうである。
	○	商店街（代表者）	・花見シーズンに入り、人出の増加が予想されるため、少し売上の改善が見込まれる。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・まん延防止等重点措置の解除による、飲食店の営業再開や時短営業の解消による影響が大きい。
	○	百貨店（売場主任）	・客が旅行の予定を立てるなど、新型コロナウイルスの感染を防止しつつも、元の生活に戻ろうとする意識を感じる。それに伴い、外出着や旅行用品、土産物などが動くことを期待している。
	○	百貨店（企画担当）	・3回目のワクチン接種による、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少を期待している。
	○	百貨店（企画担当）	・このままコロナ禍が収束に向かえば、外出の頻度も増え、来客数、売上は現状よりも上向くと期待している。
	○	百貨店（外商担当）	・徐々に消費行動は好転しており、新型コロナウイルス発生前の状況に近づきつつある。ただし、ウクライナ情勢に対する不安要素の存在が懸念される。
	○	百貨店（マネージャー）	・明らかにコロナ禍の影響が緩和されつつある。特に、直近の2週間で急速に緩和している。2週間前は前年並みであったが、前週は来客数、販売量共に、前年比で1けたの増加となっている。
	○	百貨店（サービス担当）	・来月からは、これまでの外出自粛の反動によるリベンジ消費とゴールデンウィークが重なり、来客数が順調に回復し、売上の確保につながることを期待している。
	○	百貨店（外商担当）	・まん延防止等重点措置の解除により、客の購買意欲が高まると予想される。
	○	百貨店（売場マネージャー）	・3回目のワクチン接種が進み、気温の上昇とともに外出機会が増えることで、景気への好影響が予想される。
	○	百貨店（マネージャー）	・4月以降は人流が大きく増え、停滞していた旅行や飲食関連の市場も活発化し、それに伴って全体的な消費活動は上向くと予想される。原料価格の値上げといった、コスト上昇の動きもあるが、消費者の理解が進むことで、大きな障害にはならないと予想される。むしろ心理的に開放されることで、節約行動と開放的な行動という、消費の二極化が更に進みそうである。
	○	百貨店（売場マネージャー）	・まん延防止等重点措置が解除され、徐々に来客数も戻ってきている。また、3回目のワクチン接種の実施で、高齢層の来客数も増えている。
	○	百貨店（マネージャー）	・今後もウクライナ危機による影響は懸念されるが、国内では3回目のワクチン接種による外出意欲の上昇のほか、リベンジ消費への意欲も高まるなど、プラスの要素が見込まれる。
	○	百貨店（服飾品担当）	・まん延防止等重点措置が解除された週末は、大きく数字が伸びたことから、今後は来客数の回復が見込まれる。前年4月末の休業を余儀なくされた状況と比較すると、売上の基調は上向くと予想される。徐々に外国人客の代理購買の比率がアップし、値上げ予定のラグジュアリー関連も数字が伸びそうである。コロナ禍がこのまま収束する感覚を、客がもっている期待感がある。
	○	スーパー（店長）	・コロナ禍が長期化し、そのなかで経済活動と共存し始めていることから、今後は徐々に良くなっていくと予想している。
○	スーパー（店長）	・今後もコロナ禍の推移に景気は左右されるが、まん延防止等重点措置の解除後は、客の買物動向が変化しており、行楽関連商品の需要が増えている。今後、客の購入意欲はゴールデンウィークに向けて高まっていくと予想される。	
○	スーパー（企画担当）	・2階にテナント誘致ができたため、来客数の増加が見込まれる。それに加えて、自転車や園芸関連の好調は続く予想される。	
○	コンビニ（経営者）	・このまま順調に経済活動が回復することを期待している。	

○	コンビニ（経営者）	・今まで控えられていた行動が再開し、新年度もスタートするなど、通常の動きに近づく形で行動範囲が広がるため、自然に消費も増えてくる。ただし、企業の負担が増えている部分については、とても不安に感じている。
○	コンビニ（店員）	・人が動けば買物をする機会も増える。当店は駅の近くの立地であるため、立ち寄りでの来店が増えてくる。
○	コンビニ（店員）	・気候が暖かくなり、冷たい物が売れ始める。
○	衣料品専門店（店長）	・毎年のことながら、4～5月に向けて季節要因で客が増えつつある。今年は新型コロナウイルスの感染第6波が下火になることで、特に回復が見込まれる。ただし、まだまだ予断を許さない。
○	衣料品専門店（営業・販売担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きが増えそうである。
○	衣料品専門店（販売担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたため、少し外出する機会が増えて、衣料品にも動きが出てくると予想される。
○	家電量販店（経営者）	・コロナ禍が落ち着いたほか、物流も正常化し、景況感が上向くと感じている。
○	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・医薬品や化粧品の売上が増加傾向にあるが、今後も新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や、気温の上昇に伴う来客数の増加が見込まれる。日用雑貨、嗜好品も堅調に推移しており、緩やかに回復していく。
○	その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・3回目のワクチン接種も進み、社会の新型コロナウイルスに対する認識が少しずつ変わり始める。
○	高級レストラン（スタッフ）	・今月末から来月にかけて、延期されていた送別会や祝賀会などの予約が増えている。
○	高級レストラン（企画）	・コロナ禍による外出の自粛や、企業の宴会自粛の緩和が進み、来客数が今よりも回復することが予想される。
○	観光型ホテル（経営者）	・現在は当地域でも県民割が実施されているが、更に広いブロックに拡大しての適用はない。元々当地区は隣接する大阪府からの来客が多いため、当地域だけの県民割では大きな効果が期待できない。
○	観光型ホテル（経営者）	・現在の社会情勢は完全に正常ではなく、新型コロナウイルスの消滅が最低の条件となる。とにかくコロナ禍の影響が強く残っているが、これから2～3か月先には状況の改善が期待される。
○	都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス発生前には到底戻らないが、徐々に回復傾向にある。一方、年配客の同窓会などはやはり自粛傾向で、10月開催分も現時点でキャンセルになるなど、先行きは不透明である。黒字に転換するまでには、相当の年数を要する。
○	都市型ホテル（販売促進担当）	・宿泊は、間際や当日の予約が増えており、稼働率は上向きそうである。飲食関係は、ここ数年はコロナ禍でさっぱりであったが、今春は直近の宴会場の予約が少しずつ入り始めている。当ホテルは受けていないが、立食パーティーの間合せも増えている。まん延防止等重点措置が解除されたほか、コロナ禍への慣れもあるかもしれないが、客室部門からは、今回はしっかりと動き出しているという声が出ている。
○	都市型ホテル（総務担当）	・社会活動の活発化が期待されるものの、今後の新型コロナウイルスの感染状況次第では、医療体制がひっ迫する懸念もあることから、まだ楽観はできない。
○	都市型ホテル（客室担当）	・3回目のワクチン接種が進むことで、Go To キャンペーンの再開にも期待が集まる。県民割などの再開の動きも、良い方向に進んでいる。
○	都市型ホテル（フロント）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が下げ止まっているものの、参議院選挙もあるなかで、まん延防止等重点措置の再適用は考えにくいいため、その間はビジネス移動や旅行消費が伸びると予想している。
○	都市型ホテル（管理担当）	・消費者の動きが活発化する。
○	旅行代理店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、感染第7波も発生せず、Go To Travel キャンペーンが再開できれば、今よりも回復することが期待される。
○	旅行代理店（従業員）	・県民割やGo To Travel キャンペーンを再開するかどうにかかっている。

○	旅行代理店（役員）	・海外旅行の需要はまだ戻らないが、国内旅行については、この2年間、貯蓄に回っていた予算が出てくると予想される。
○	旅行代理店（支店長）	・国内旅行については、ゴールデンウィークの日並びも良いほか、自治体による県民割やGo Toキャンペーンの再開を求める声は大きいと、需要は伸びると考える。一方でウクライナ問題もあり、海外旅行の復活はまだ先となる。
○	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されたほか、春になって暖かくなったこともあり、週末にはいろいろな場所で人出がみられる。
○	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置の解除で、消費者からコロナ禍への恐怖心がなくなっていくことを期待したい。4月も異動による挨拶回りなどでの、人の動きを期待している。
○	ゴルフ場（支配人）	・来客数は増加傾向にある。今後は物価の上昇で仕入価格の上昇が懸念されるが、それ以上に売上が増えれば、景気は良くなっていく。
○	その他サービス [マッサージ]（スタッフ）	・アロマオイルでのマッサージで服を脱ぐため、寒い時期よりも暖かい時期の方が客は増加する。
□	一般小売店 [珈琲]（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きは活発になるが、毎回その影響で新型コロナウイルスの感染が再び拡大してきたため、期待できない。
□	一般小売店 [野菜]（店長）	・ウクライナ問題が3か月後に終わっているかどうかで、物価の上昇率が変わる。安定して商品が入ってくれば助かる。
□	一般小売店 [菓子]（営業担当）	・コロナ禍への不安がまだまだ残っており、動きの方向性が一向に定まらないなど、先行きが不安である。
□	百貨店（店長）	・ウクライナ危機などで物価が上がるなか、お金を節約する部分と使う部分の差がどんどん出てくる。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてくることも予想されるなど、不安材料がなくなるまでにはまだ時間が掛かる。
□	百貨店（営業推進担当）	・コロナ禍は一旦落ち着いているが、緊迫するウクライナ情勢、原材料価格の高騰による食品類の値上げなどの悪影響で、大きな伸びは期待できない。
□	百貨店（販売推進担当）	・まだまだ一進一退の状況が続くと予想される。
□	百貨店（特選品担当）	・コロナ禍は良くなったり悪くなったりの繰り返しで、結局は余り変わらない状況である。今後は良くなる可能性の方が大きいと、ウクライナ危機による影響も少なからず出ており、事態が長引けば、影響は更に大きくなることも考えられるので、3か月先も状況はそれほど変わらない。
□	百貨店（宣伝担当）	・中国やアジアからの輸送の停滞に、ウクライナ危機の影響が加わり、春夏商品の入荷が遅れが始まっている。ゴールデンウィークや母の日商戦を前に、不安要素が増えている。
□	百貨店（販促担当）	・コロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵攻による社会不安もあり、先が全く見通せない状況にある。状況が良い方向に進む場合は、旅行を中心に消費の機運が一気に高まり、プチゼイたくをキーワードに消費を楽しむ提案を進めていく。仮に逆の方向であれば、引き続きイェナカでのプチゼイたくや、防災関連商材の打ち出しを行うなど、柔軟に対応していく。
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況は依然として予断を許さない状況にあるほか、各メーカーの販売価格の引上げによって生活防衛意識は更に高まる。
□	スーパー（店員）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増えなければ、客も毎日買物に来店してくれるため、それなりに売上が伸びる。
□	スーパー（企画担当）	・今月以降も値上げ予定の商品が多く、厳しい状態に変化はない。果物などの輸入品に関しても、値上がりは避けられない。
□	スーパー（開発担当）	・原油価格の高騰が続き、小麦の値上げも発表されている。4月からは食品の値上げが進むため、景気が良くなる可能性は低い。賃金の上昇もないため、コロナ禍のなかで良い材料は何も見当たらない。
□	スーパー（社員）	・全ての客ではないが、節約しようとする客は、広告の商品や値下げ商品の購入が増えている。今のやや厳しい状況が、しばらく続くと考えている。

<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの感染状況や、物価や光熱費の値上げといった不安材料が多いなか、景気が上向くことはあり得ない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・様々な商品やサービスの値上げが予定されている。一方、給与については上がる気配がなく、東京を除く地域は、アフターコロナのリベンジ景気の波に乗り遅れる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（企画担当）	・リフォーム市場では、グリーン住宅ポイントとは異なり、こどもみらい住宅支援事業が補助金交付型であるため、問合せが急増している。消費者の反響が良いため、今後に期待している。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（営業担当）	・コロナ禍とウクライナ危機の影響がある間は、厳しい状況が続く。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・何となく様々な動きに時間が掛かるようになった。また、物価は上がり、納期未定の仕入れが売上を更に圧迫すると予想される。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・ロシアのウクライナ侵攻により、為替や金相場の変化で仕入商品のコストも上昇し、販売価格を上げざるを得なくなっている。新年度以降の、客への商品提案も簡単ではない。
<input type="checkbox"/>	その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・直近の売上は前年を上回ったが、新型コロナウイルスの感染再拡大のリスクが付きまとい、なかなか安定的な業績改善は見込みづらい。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（企画）	・コロナ禍の影響については、内食、中食と比べて外食はまだまだ厳しい。まん延防止等重点措置は解除されたが、消費はまだまだ回復には至っていない。また、ロシアのウクライナ侵攻による経済への影響は、原油や原材料価格の上昇が企業や家計を直撃しており、今後も厳しい状況が続くことが予想される。
<input type="checkbox"/>	その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が余り減らず、感染第7波に突入しそうな情報が流れている。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（客室担当）	・コロナ禍の影響もあり、爆発的に来客数が伸びることはない。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（管理担当）	・コロナ禍の先行きが不透明であるため、一進一退の動きが予想される。
<input type="checkbox"/>	観光名所（企画担当）	・3月21日をもってまん延防止等重点措置が解除になったが、まだそれほどの動きがなく、先行きは不透明である。
<input type="checkbox"/>	遊園地（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除を受け、来客数の回復が顕著となっている。ただし、現状の動きがいつまで続くかは不透明であり、楽観視はできない。様々な面で判断が慎重にならざるを得ない状況にある。
<input type="checkbox"/>	競輪場（職員）	・ゴールデンウィークに入るほか、当競走場で一大イベントがあるなど、良くなる要素はある。ただし、ロシアのウクライナ侵攻による影響や、コロナ禍による物流の悪化や物価の上昇で、どの程度の影響が出るのか、見当が付かない。
<input type="checkbox"/>	競艇場（職員）	・コロナ禍による在宅ワークの影響もあり、電話投票やインターネット投票の売上が全国的に好調を維持している。ここしばらくは、現在の高水準の売上が続くと予想される。
<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・ウクライナ危機の長期化によるインフレの進行や、新型コロナウイルスの感染拡大といった下振れリスクが多く、慎重にならざるを得ない。特に、消費の力強い回復がみられない段階で、水道、光熱費が急上昇すれば、企業収益が打撃を受ける。
<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・コロナ禍やウクライナ危機によって、物価の上昇が進むなか、消費が活発化しない。
<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、プロ野球の試合でも入場制限がなくなった。新型コロナウイルスの感染に対し、万全の対策をとったなかではあるが、久しぶりに多くの来場者が訪れることを期待している。なお、3か月後の状況は不透明であり、大きくは変わらないと予想している。
<input type="checkbox"/>	美容室（店員）	・気温が上がってくると髪型を変えたいくなるが、今のところは大きく変わらない。
<input type="checkbox"/>	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・前月に続き、入会者が増えている。ただし、今後は年度替わりとなるため、多少の退会者も見込まれる。
<input type="checkbox"/>	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・新築住宅市場は、政府の強力な支援策でも発表されない限り、上向くことはない。

▲	一般小売店 [時計] (経営者)	・1か月ごとに新型コロナウイルスの関連情報や世界の情勢がどんどん変わり、落ち着かない気持ちである。人のメンタルが振り回されることも事実であり、安易に2～3か月先に良くなるという希望的観測はもてない。
▲	一般小売店 [事務用品] (経営者)	・新型コロナウイルス発生前に戻るとは考えていないが、今後も経済は悪いままのような気がする。
▲	百貨店 (売場主任)	・ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあって所得が増えないなか、物価は上昇しており、消費に影響が出るのは必至である。前年の5月は緊急事態宣言の発出で大きく悪化したため、今年は通常の営業ができれば、前年よりも良くなるが、本格的に景気が良くなる状況にはない。
▲	スーパー (経営者)	・今月以降も幅広い商品の値上げがあるが、今のところ同業者との価格競争による値崩れは起こっていない。客も値上げをやむなしと受け入れざるを得ない状況とみられるが、中小企業にまで賃上げが行き渡るかは不透明である。高齢者の年金の目減りなどで、節約ムードが高まることは避けられない。
▲	スーパー (店長)	・原価の高騰による値上げで、生活防衛の意識が強まるおそれがある。
▲	スーパー (店員)	・コロナ禍も落ち着いてきて、人出が多くなることも予想されるが、いろいろと値上がりする商品も増えるため、買い控えの動きが出ると予想される。
▲	コンビニ (店長)	・コロナ禍に加えて、ウクライナ危機の影響も不安視される。ガソリンや小麦粉など、どの部分にどの程度の影響が出るのかが心配である。
▲	コンビニ (店員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や、4月からの商品の値上げなどが影響する。
▲	家電量販店 (店員)	・コロナ禍やウクライナ危機が日本経済に大きく影響し、小売業にもダメージが出る。消費者の購買意欲は下がり、既に最低限の生活を受け入れる傾向になりつつある。
▲	家電量販店 (店員)	・値上げの影響が徐々に始まる可能性がある。
▲	家電量販店 (店員)	・値上がりなどの情報で、客が購入に慎重になる可能性もある。
▲	乗用車販売店 (経営者)	・給料の増加と、物価の上昇のバランス次第となる。
▲	乗用車販売店 (経営者)	・半導体不足の問題で生産が制限されており、新車の販売が厳しい。新車の購入希望者が購入を諦めることもあり、売上が伸びない。
▲	乗用車販売店 (営業担当)	・半導体不足に加え、ウクライナ危機で更に生産が落ちることが予測される。
▲	乗用車販売店 (販売担当)	・ロシアのウクライナ侵攻もあり、今後、原材料費や燃料費の高騰などが足を引っ張る。
▲	その他専門店 [宝石] (経営者)	・ガソリンや小麦価格の高騰が、所得に影響を与える。この状況はしばらく続く。
▲	その他専門店 [ドラッグストア] (店員)	・緊急事態宣言などの発出中は、買物こそが外に出掛ける動きであったが、今後は旅行などに行き始めるため、売上は厳しくなる。また、今後もマスク生活が続くため、高額化粧品などの売上も回復の期待は薄い。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経理担当)	・まん延防止等重点措置が解除され、Go Toキャンペーン等の観光振興策が打ち出されると、ゴールデンウィークを中心に景気の一時的な回復が見込まれる。ただし、ウクライナ危機や原油価格の高騰が長期化すれば、物価の上昇につながり、買い控えなどの消費の抑制が進む。
▲	その他小売 [インターネット通販] (オペレーター)	・送料の無料キャンペーンが終わるため、例年どおりの動きに戻る。
▲	一般レストラン (店員)	・春休みや卒業式などの影響もあり、家族連れでの外食の客が増えたが、今後はそのようなイベントもないため悪くなる。
▲	その他飲食 [自動販売機 (飲料)] (管理担当)	・経費削減の流れはこれから更に強まるため、自動販売機の撤去は、増える要素しか見当たらない。
▲	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されたが、接待などを自粛する企業はまだ多く、会食後の深夜の長距離客が期待できる状況ではない。

▲	通信会社（社員）	・コロナ禍からの回復が余りみられない。ウクライナ危機の影響や、ガソリン代を始めとする物価の上昇により、消費を控える傾向がますます強まることが懸念される。
▲	通信会社（企画担当）	・ウクライナ情勢やコロナ禍の影響、各国での金融引締めなどから、我が国もインフレ傾向になると予想される。一方、それに見合った給料の増加は見込めないため、景気は悪化に向かうと考えられる。
▲	テーマパーク（職員）	・ロシアによるウクライナ侵攻が社会に与えたインパクトは相当大きい。ロシアが我が国の隣国という現実から、他人事でないことがよく分かる。原子力発電施設に攻撃を仕掛ける国とは、正常な交渉は困難である。
▲	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・ウクライナ危機に伴う物価の上昇で、財布のひもが固くなることを心配している。
▲	住宅販売会社（経営者）	・世界情勢が不安定で、先が見通せない。
▲	住宅販売会社（経営者）	・ウクライナ問題で、徐々に国内の景気にも影響が広がる。
▲	住宅販売会社（従業員）	・分譲マンションの供給が都心部周辺に広がっている一方、販売単価の高騰が止まらない。既に価格水準が実需層の限界に達しており、今後は売行きが悪化していくことも考えられる。
▲	住宅販売会社（総務担当）	・ウクライナ危機に伴い、木材の建材やコンピュータ制御の浴槽などの調達に時間が掛かり、費用も上昇傾向となる。
▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・世界情勢の不安定化がますます加速するほか、円安の進行によって物価の上昇が更に進む。
▲	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・仕事に必要な工具類や備品の入荷も遅れがちであり、スムーズに予定が立てられない。目に見えない形で、機会損失が発生している。
▲	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・海外の不安定な状況や円安などの影響を含めて、原価の大幅な上昇が見込まれるなか、住宅価格の更なる上昇は不可避である。今後の価格転嫁により、販売の停滞につながるおそれが強まっている。
×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・ロシアのウクライナ侵攻による影響が出る。
×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今後また増えるおそれがあるほか、物価上昇による買い控えの懸念も強い。ロシアによるウクライナ侵攻の動きも、今後の推移は不透明であり、景気が良くなるとは到底思えない。
×	一般小売店〔呉服〕（店員）	・高額の呉服を扱っているが、貴金属の購入客とは違った考えの客が多い。着物でぜいたくをするのであれば、世界の恵まれない子供に寄付する方がよいという人も多く、呉服の買い控えが発生している。
×	衣料品専門店（経営者）	・商品を仕入れようとしても、売れ筋商品が入らず、ヒット商品もない。
×	住関連専門店（店長）	・通関業者によると、ロシアのウクライナ侵攻で船便の輸送費が1.5～2倍に上昇し、航空輸送は10～20倍に高騰している。現地の取引先からは、燃料費高騰による大幅値上げの通達があった。目に見えて大変厳しい状況となっている。
×	住関連専門店（店員）	・様々な商品の価格が上がると同時に、収入は変わらないため、良くなる要素がない。
×	一般レストラン（経営者）	・4月からの値上げラッシュで家計も厳しくなり、新型コロナウイルスの新規感染者数も増加傾向となるおそれがあるため、来客数は減少する。
×	一般レストラン（経営者）	・3回目のワクチン接種と治療薬の普及が進んでくれば、安心して外食を楽しめるようになるため、そろそろ期待できる状況となる。ただし、物価の上昇が進めば、娯楽関連が最も節約の対象となる。4月からは物価の上昇が続くと予想されるため、少し落ち着くまでは、まだ気が許せない状況である。
×	観光型旅館（経営者）	・直近を含めて、3か月先の動きはほとんどみられない。やはりコロナ禍の影響で、予約の間際化が進んでいる。

企業 動向 関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業（経営者）	・国際コンテナ運賃の暴騰や、ロシアのウクライナ侵攻など、自社事業に影響の大きな事象が発生し、利益が計画よりも大幅に減っている。利益の減少は販売量の増加で埋めるしかなく、より一層の販路拡大を目指し、事業を進める予定である。
	○	食料品製造業（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除になったため、これから人の流れがもっと増えれば、売上も少し良くなっていく。さらに、Go To Travelキャンペーンが再開となれば、少し景気も良くなる。
	○	建設業（経営者）	・今の状況が続けば、受注も少しずつ増えてくる。ただし、材料費の高騰による影響で、発注の見合せや延期の可能性も否定できない。
	○	輸送業（商品管理担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたため、今後は酒類の販売が増加する。
	○	広告代理店（営業担当）	・このままコロナ禍の再拡大がなければ、新型コロナウイルス発生前には戻らないまでも、前年よりも広告出稿は回復すると予想される。
	○	広告代理店（営業担当）	・今年に入り、Web媒体、紙媒体共に、広告売上は前年を少し上回る状態が続いている。
	□	繊維工業（団体職員）	・新型コロナウイルスの感染状況に左右されるが、原材料費や加工料の値上げが続く一方、販売価格の値上げ交渉は思うようには進んでいない。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・上向くような情報がない。
	□	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・コスト削減の動きは続くと予想され、各企業は必要最低限の受注を意識せざるを得ない。
	□	化学工業（経営者）	・一部では景気が回復しつつあるが、コロナ禍の長期化で、感染対策の製品は購入が一巡し、売れなくなっている。既存の製品も相変わらず売行きが悪いなど、全体的にはまだまだ厳しい。
	□	化学工業（企画担当）	・元々食品原料の価格が高騰していた上に、ロシアのウクライナ侵攻により、本来であれば作付けの時期である春に、コーンや他の農作物の作付けができないため、中長期にわたって原料が不足することが予想される。
	□	金属製品製造業（開発担当）	・新型コロナウイルスの影響で中国経済の動きがストップしている。
	□	金属製品製造業（営業担当）	・最終需要の動きは、業界によって様々となっている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍で既に悪いなか、ウクライナ危機の影響もあり、業況が持ち直すことはない。
	□	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・世界情勢が不安定ななか、景気が悪化することはあっても、好転することは難しい。
	□	輸送用機械器具製造業（役員）	・主な取引先である自動車関連各社の動向が見えにくい。
	□	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・まん延防止等重点措置が解除されたが、新型コロナウイルスの新規感染者数は依然として多く、感染第7波の発生のおそれもあり、収束の見込みが立たない状況が続いている。それに加え、原油価格の上昇によって原材料の値上げも進んでいるが、販売価格に転嫁できず、苦しい状態である。
	□	建設業（経営者）	・ウクライナ危機による建設資材関連への影響を心配している。今後も設備投資の計画予算に合わず、工事が凍結や延期、縮小、中止となるケースが増えそうである。
	□	輸送業（営業担当）	・商品の納期が伸びており、しばらくは今の状況が続くそうである。
	□	金融業〔投資運用業〕（代表）	・仮にコロナ禍が収束し、消費が戻ってきたとしても、この2年で事業の継続のために発生した負債や金利の負担は大きい。それを補えるだけの劇的な収益の回復が見込めるかといえば、いささか不安である。
□	金融業（営業担当）	・コロナ禍やウクライナ危機の影響で、商品が値上がりしている。また、入荷がないため、資金繰りも悪化が進む。	
□	金融業（副支店長）	・ウクライナ情勢の不安定化で、株式相場も不安定な状況となっている。景気についても、引き続き様子見の消費者が多いと予想される。	
□	司法書士	・まん延防止等重点措置が解除されたが、早くも新型コロナウイルスの新規感染者数の増加傾向がみられたり、ウクライナ問題も続き、明るい兆しがみえてこない。	

	□	その他サービス [自動車修理] (経営者)	・早く新型コロナウイルス発生前の状況に戻ってほしい。
	□	その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	・まん延防止等重点措置は解除されたが、新型コロナウイルスの新規感染者数がまだまだ多いため、前向きな活動ができていない。
	▲	食料品製造業 (従業員)	・国内だけの問題ではなく、世界的に経済が混乱しており、予想外のところまで影響が広がっている。原材料や資材価格の高騰は止められない状況であり、為替の変動の影響も出ている。今後は値上げ交渉を進めていくが、量販店は簡単に受け入れてくれない。
	▲	繊維工業 (総務担当)	・物価の高騰が買い控えの引き金となり、売上の減少につながる。
	▲	化学工業 (管理担当)	・ウクライナ問題や原材料の価格高騰などで、先行きは不透明であり、利益の減少が予想される。
	▲	プラスチック製品製造業 (経営者)	・ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギー問題が注目されているが、石油製品の更なる値上がりが見込まれる。仮に原材料の価格上昇分を製品価格に転嫁すれば、受注量の減少につながる。
	▲	窯業・土石製品製造業 (管理担当)	・ロシアのウクライナ侵攻の影響で、景気の先行きは不安定である。経費のうち高い比率を占める燃料費の高騰が確実な状況であるため、売上は堅調に推移する予想ではあるものの、純利益の減少は避けられない。不安な要素が多く、景気はやや悪くなることが予想される。
	▲	金属製品製造業 (経営者)	・ロシアによるウクライナ侵攻で、経済に更なる減速感が出てくる。
	▲	一般機械器具製造業 (設計担当)	・世界情勢が余りにも良くない状態であり、物価も上昇傾向にあるが、収入面では上昇が見込めない。
	▲	電気機械器具製造業 (経営者)	・今後2～3か月のロシアの動き次第で、今年の動向が左右される。とにかく今は、ロシアの冷静な判断が求められる。
	▲	電気機械器具製造業 (営業担当)	・コロナ禍とウクライナ問題により、材料価格が上がっているほか、入荷も減少している。
	▲	電気機械器具製造業 (営業担当)	・部品の納期が延びる方向にあり、半年先の注文しか受注ができない。
	▲	建設業 (経営者)	・4月からのアスベスト規制の強化が、住宅の小規模リフォームにまで及ぶため、コストへの影響を含めた混乱が予想される。
	▲	輸送業 (営業担当)	・個人間売買の荷物が増え続けており、その分、企業の新たな製品が売れなくなることが心配される。
	▲	その他サービス業 [店舗開発] (従業員)	・ロシアによるウクライナ侵攻で、今後は国内でも徐々に影響が出てくる。既にガソリン価格は170円台後半まで値上がりしており、物価の上昇が懸念される。
	▲	その他非製造業 [商社] (営業担当)	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ危機や中国でのロックダウンの影響も懸念されるなど、良い方向には進まない。
	×	繊維工業 (総務担当)	・円安の進行や原油価格の高騰で、原料等の全てのコストが上昇し始めたため、今後の景気は相当悪くなると判断している。
	×	通信業 (管理担当)	・ロシアによるウクライナ侵攻で、世界経済の悪化が進むと予想される。
	×	不動産業 (営業担当)	・まん延防止等重点措置が解除されても、賃料の値下げが続いている。また、原油価格が上がり、それによって全ての物が値上げとなっている。
	×	その他非製造業 [電気業] (営業担当)	・世界情勢が混とんとしている。
雇用 関連 (近畿)	◎	*	*
	○	人材派遣会社 (役員)	・まん延防止等重点措置の解除は景気にプラスであるが、ロシアのウクライナ侵攻と、その経済制裁に伴う資源や穀物相場の上昇、円安の進行はマイナスである。先行きは不透明感が強いが、トータルではプラスと考えている。
	○	人材派遣会社 (管理担当)	・新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きとともに、回復が進むと予想されるが、ここへきて感染第7波への懸念も払拭されておらず、予断を許さない。
	○	人材派遣会社 (営業担当)	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きや採用の動きも戻ってくる。
	○	職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの感染も収束に向かう傾向にあるため、景気はやや戻ると期待している企業が多い。

○	民間職業紹介機関（営業担当）	・2023年卒の新卒採用では、学生の根強い大手志向で、早くも選考落ちがみられる。そのため今後も求人広告の動きは活発化すると予想される。2024年卒のインターンシップ募集においても、今年はコロナ禍の採用減の反動で、特に夏のインターンシップに力を入れる企業が増える見込みで、広告掲載も増えそうである。
○	学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇による影響が気になるが、株価も上昇しているため、景気も良くなると予想される。
□	人材派遣会社（経営者）	・新年度に入っても企業はいろいろな意味で慎重にならざるを得ない。好調な業種は余り見当たらず、良くなると期待していた自動車関連も横ばいとなっている。
□	人材派遣会社（営業担当）	・ウクライナ危機の長期化による日本への影響が懸念される。物価が更に上昇した場合も、賃金の上昇は進まない。
□	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、物販や飲食、旅行、観光業などを中心に、消費は上向くとみられる。一方、ロシアによるウクライナ侵攻については、まだ先が見通せない。一旦、株価は侵攻前の水準に戻っているが、原油や穀物などの資源価格の高騰は更に進む可能性があり、先行きの見通しは厳しい。ただし、不確定要素が多いため、今後の景気は上下のどちらにも向かう可能性がある。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・まだコロナ禍から脱したとはいえ、新聞広告の推移も前年比で80%程度の見込みとなっている。
□	職業安定所（職員）	・ウクライナ情勢の先行きは不透明であり、原油や原材料価格は高騰が続くことが懸念される。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・引き続き新型コロナウイルス関連の特需に加え、ワクチン接種に関する求人が出てくる。また、通常の派遣求人数も増加が続くことから、現状と大きく変わらない。
□	学校〔大学〕（就職担当）	・ウクライナ危機の今後の情勢次第で、ムードが変わることを期待している。
▲	人材派遣会社（支店長）	・引き続き受注は多いが、スタッフの採用が鍵になりそうである。
▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻がどういった形で終わるのかにもよるが、世界の景気がすぐに以前の水準まで戻ることはない。
▲	職業安定所（職員）	・まん延防止等重点措置の解除により、今後の明るい動きが期待されるものの、雇用調整助成金の申請件数が2～3月にかけて微増となるなど、雇用調整の動きが懸念される。一方、企業からはウクライナ危機による悪影響を懸念する声が出ているが、現時点では求人動向への直接的な影響はみられない。
▲	民間職業紹介機関（職員）	・景気の先行き不透明感が強く、仕事の受注見通しは未確定と回答する求人企業も多い。それに伴い、今後も求人数の増加は見込めない。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・現在の地政学的な問題が長引けば、今後の景気への影響はますます大きくなる。
×	—	—